USER MANUAL
日本語取扱説明書

NUO 3

PROFESSIONAL AUDIO CONTROLLER

ECLER

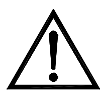
AUDIO CREATIVE POWER

目次

1. 重要な記述

1.1. 安全に関するインストラクション

本製品を末永く、安全にご使用いただくため、電源を含むすべてのケーブルを本体に接続する前にこの日本語取扱説明書をよくお読みください。この説明書には今後使用する上でのさまざまなエッセンシャルが細やかに記述されています。もし、ご不明な点が生じた場合はご遠慮なくお求めの販売店もしくは輸入元カスタマーサポートへご連絡ください。
また、製品に不具合や不調がある場合は決してご自身で修理を試みず、お近くの販売店に本体をお持込の上ご相談ください。



本体に同梱されている電源ケーブルはアースつき 3P 仕様となっています。アースの取れる場所においては極力アースをとるようにして下さい。
本体にいかなる液体を混入させたり、また雨や高温多湿の場所を避けるようにしてください。

また、本体を長期間使用しないときは、本体の電源プラグをはじめすべての接続ケーブルを抜いてください。



CAUTION: RISK OF ELECTRIC SHOCK. DO NOT OPEN.

1.2. 製品の保証とアフターサービス

この製品はスペインで生産され、ECLER がもつ厳しい製品検査を経て出荷され、また国内到着後当社の厳密な検査にも合格した上で出荷されたものです。しかしながらご使用中に万一製造上の不備による故障が発生した場合は、製品に同梱している保証書に記載された保証規定に従い保証期間に限り無償修理致します。
なお、本製品の保証期間は販売店よりお買い上げの日より換算して 1 年間です。
また、本製品は下記輸入元の正式な手続きを経て輸入されており、それ以外のいかなる者により国内に調達された製品に関してはどのような場合にあっても製品保証の対象外とさせていただきますのであらかじめご了承願います。
This warranty program is valid only in Japan.

修理に関する御相談先
▼国内輸入総代理店
グラフィカ株式会社　技術部 カスタマーサービス
電話 086-242-5105　　　　　　　　FAX：086-242-5106
〒700-0976 岡山市辰巳 421-1 3F
メールでのお問い合わせは：postmaster@graphica.ne.jp までお願いします。

※　製品を送付される前に必ず御連絡をお願いします。その際、修理受付番号を申し上げますので番号をお手元にお控えいただきます様お願いします。また、無償修理の場合保証期間内であることが証明された「製品保証書」が必要になります。それ以外の修理はいかなる場合においても有償となりますのでご了承ください。
※　本製品に関する保証制度は、販売店よりご購入したオリジナルユーザー（最初のユーザー）のみ有効です。保障期間内に譲渡された場合、被譲渡者には保証制度の一切の権利は継承されません。

また、製品の不具合、故障につきまして、販売店もしくは輸入元に送品する前にその症状、発生頻度などをできるだけ詳しく記載したメモを同封いただけますと迅速な修理が可能です。

2. イントロダクション

このたびは ECLER 社プロフェッショナル DJ ミキシングコンソール"NUO3"をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。NUO3 はスペイン ECLER 社が長年の技術の蓄積をもって開発した真のプロフェッショナル DJ に向けたコンソールであり、DJ ユースとしての使用はもちろんのこと、レコーディング、各種音楽制作にも十分な力を発揮するオーバークオリティを目指してデザインされました。世界中のトップ DJ たちの要望を真摯に受け入れ、開発から生産までを一貫して自社で行い、また 1 つ 1 つのパーツにいたるまですべてにおいて吟味を尽くした、「道の追及」という言葉がぴったりと当てはまるすばらしい製品です。

基本的に NUO3 は 3 チャンネル型の DJ ミキサーであり、合計で 9 チャンネル分の異なるソース(音源)を再生することが可能です。

本体の高い堅牢性と耐久性により、クラブやスタジオなどプロフェッショナルな再生環境において小型のミキサーが必要な場合のユースとして適しています。

.

3. 本体の設置

まず、ユーザー様において考慮しなければならないのは「これをどこに設置し」「周辺機器とのケーブルをいかに取り回すか」ということです。通常、こういった DJ ミキサーと呼ばれるものはテーブルトップを前提にデザインされており、両脇にターンテーブル(レコードプレーヤー)もしくは CD といった再生機器を置き、NUO3 本体はその中央部に設置します。NUO3 の寸法は幅 22.4cm、奥行き 37cm です。

別売オプションの鉄製「サイドプロファイルキット」を使えば DJ テーブルなどと相互に固定することができ、より快適な操作ができるようになります。詳しくは巻末の資料(Fig.1)をご覧ください。

マイクロフォン、およびターンテーブル(PHONO)は非常に高いゲイン(利得―音声信号の増幅)を必要とし、周辺で電気的ノイズが発生するとそのノイズがケーブルを介して混入し、ノイズごと増幅されてしまいます。調光装置やエンジン、大型トランスなど、本体からノイズの発生する機材およびケーブル(こういった機械は本体そのものからノイズが出ているものです)から離した状態でお使いください。また、本体自体は強い電気シールドを施しています。お使いの際は、本体の底部メタリックカバーを開けたままの状態で使わないでください。

NUO3 の電源は通称スイッチングシステムといわれる電源を使用しているため、特に大きな発熱はありません。本体をクーリングする必要はありませんが、使用環境において極端に高温多湿の場所、もしくは埃の多い場所でのご使用はお控えください。

この電源システムは ECLER がワールドワイドの使用を前提にして設計したユニバーサルパワーサプライを使用しており、90～264VAC、電源周波数 47～63Hz の間であれば正常に動作します。外国での使用は、その国にあった AC コンセントのアタッチメントを購入するだけで使用することができ、ステップアップトランス等は必要ありません。

今一度、電源ケーブルが信号ケーブルと同じ位置でにあったりクロスしたりしていないかをご確認ください。このような状態ですと電源ノイズを発生しやすくなります。

なお、本体には過電流用のヒューズ(T500mA)が搭載されています。本体の電源コード差込口のすぐ上にヒューズホルダーがあり、もしもこのヒューズが切れた場合も簡単に交換が可能です。ただし、交換してもすぐヒューズが切れるなどの現象が起こった場合は内部の異常が考えられます。前項のカスタマーサービスもしくはお求めの販売店にご相談頂きますようお願いします。



＜注意＞規定容量外のヒューズを挿入することは絶対におやめください。また、交換したヒューズがすぐに切れるなどの症状がある場合は別の不良が考えられます。お近くの販売店もしくは輸入元カスタマサービスもしくはお求めの販売店までご相談ください。

3.1. 音声ラインの接続

H-Line 1	CD プレーヤー1
Phono 1	ターンテーブル 1
L-Line 1	コンピューター用音声出力、テープレコーダー出力等
H-Line 2	CD プレーヤー2
Phono 2	ターンテーブル 2
Micro 2	マイクロフォン
H-Line 3	CD プレーヤー3
Phono 3	ターンテーブル 3
L-Line 3	コンピューター用音声出力、テープレコーダー出力等 3

〇Phono（フォノ）入力

Phono 入力(28)に接続されるターンテーブル（レコードプレーヤー）は、「ムービングマグネット方式」（通称 MM 方式）によるものであり、その出力が-55Dbv から-25dBV(1.77～56mV)の間にあるものをご使用ください。通常市販されている DJ 用ターンテーブルのほとんどがこの規格に適合します。NUO3 は PHONO 入力に対して十分なヘッドルームを持っているため、通常の入力感度は.-40dBV(10mV)となっています。このことにより比較的出力の高いカートリッジを使用しても機材にダメージを与えることなく使用することができます。また、ターンテーブルから出ているアース線は必ず NUO3 本体のアース端子に接続してください。

〇ライン入力

接続の前にぜひ知っていただきたいこと、それは通常 CD から出力される基準音声レベルはシーケンサーやサンプラーなどの電子楽器等の出力より高いことです。NUO3 ではこれらの出力のレベルを一定に保てるよう、それぞれに専用の入力端子を設けました。H-LINE(27)(基準入力 0dBV/1V)は主に CD や DAT、MP3、DVD プレーヤー等の出力を接続します。また、L-LINE(32)(-10dBV / 316mV)は、カセットデッキ、チューナー、サンプラーやシーケンサーなどを接続します。信号出力レベルに関してご不明な点がある場合、その機器の説明書に書かれている製品仕様をご確認ください。.

〇マイクロフォン入力

マイクロフォン入力（31）は、基準入力レベルが-50dBV (3.16 mV)であり、XLR 端子を装備しています。 通常の入力感度は-50dB(3.16mV)です。またリアパネルにある MIC ATT スイッチ(30)により 20dBV の入力感度調整が可能です。端子はバランス接続になっているので、下記のような接続が必要になります。

ホット／正相信号	>	Pin 2 Tip
コールド／反転移位相信号	>	Pin 3 Ring
グランド	>	Pin 1 Sleeve

NUO3 に接続されるマイクロフォンはインピーダンスが常に (200 to 600Ω)の、いわゆる「ローインピーダンス」型のものをご使用ください。また、アンバランス接続を行う場合はピン 1 とピン 3 はコネクター部分でショートさせておく必要があります。
NUO3 はコンデンサーマイクなど、外部電源を必要とするマイクのためにファンタム電源出力が装備されています。通常、工場出荷状態ではこのファンタム電源が ON の状態になっていますが、内部ジャンパーの設定によってこの機能を OFF にすることが可能です。（詳しくは巻末のダイアグラムをご覧ください）

3.2. 音声信号出力に対する機器接続

Out 1	メインパワーアンプ、PA 送りなど
Out 2	ブース送りや別ルームに対するサブ出力
Rec	レコーディング用出力
External FX (Send and Return)	サンプラー、エフェクターなどの外部接続デバイスへの出力 (およびリターン入力)
Monitor	ヘッドフォン

-マスター出力1 [OUT1] :

この出力端子は XLR バランスとなっており、主に業務用パワーアンプや PA ラインへの送りに対する出力として用いられます。この出力レベルの工場出荷時における基準値は 0dBV (1V)ですが、内部基板の簡単なジャンパー変更で+6dBV (2V)にすることが可能です。OUT 1 出力は MASTER 1 (22)ボリュームノブで調節することができます。

-マスター出力 2 [OUT2]

標準的な使い方として DJ ブースへの送りやステレオへの出力を行うといった場合が考えられます。端子である"stereo OUT 2" (29)は RCA ジャック端子を使用したアンバランス接続です。出力レベルの工場出荷時における基準値は 0dBV (1V)ですが、内部基板の簡単なジャンパー変更で+6dBV (2V)にすることが可能です。OUT 2出力は MASTER 2 (21)ボリュームノブで調節することができます。

-レコーディング出力(Recording Output)

RCA ピンジャックを使った録音用の出力です。基準出力は 0dBV(1V)となっており、変更はできません。

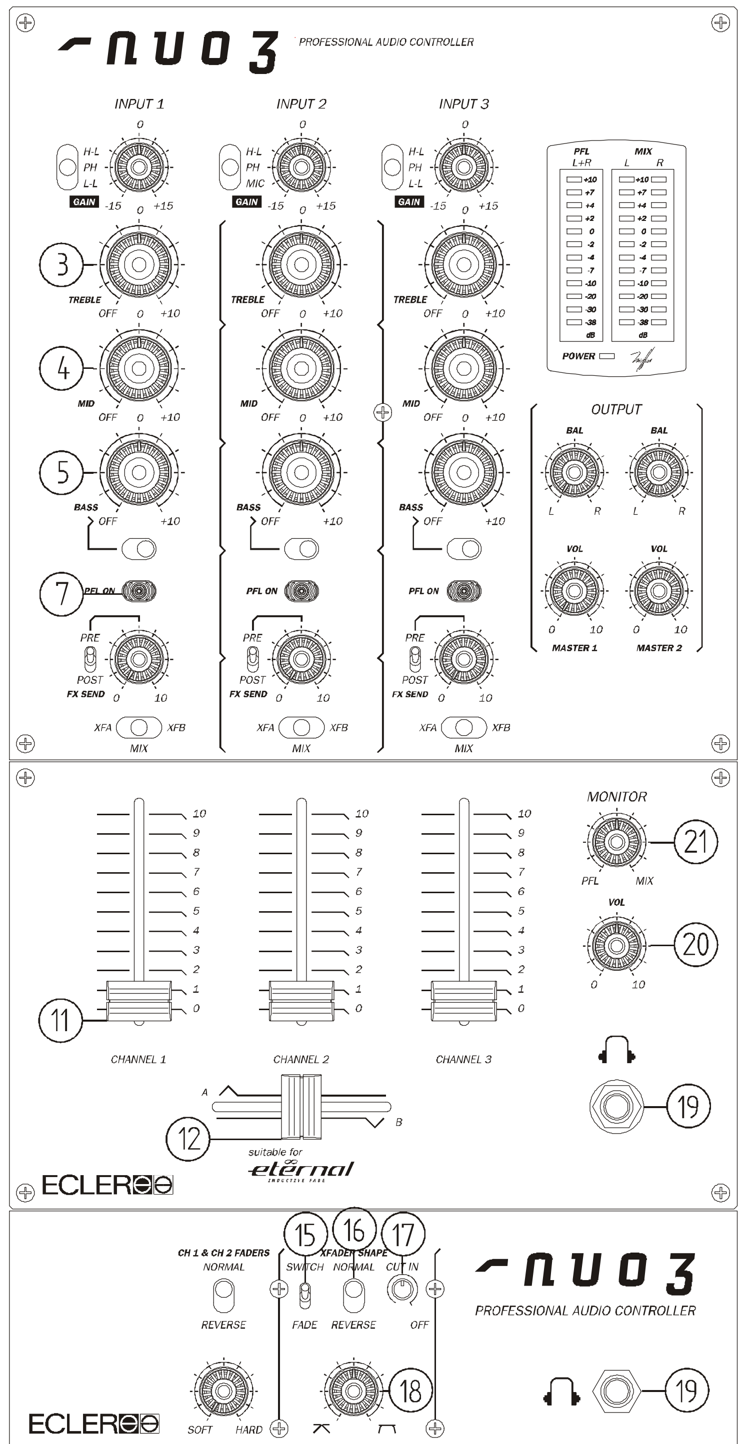
- エクスターナルループ端子 (External loop) :

エクスターナルループとは外部のエフェクターやサンプラー、シーケンサーなどを NUO3 に接続し、外部ループによる多彩なプレイを実現する端子です。外部出力端子=EXTERNAL FX SEND (12)と外部入力端子=input RETURN (24) の 2 つがあり、外部機器の入出力をそれぞれ接続します。また、このエクスターナル出力は PRE/POST 切り替えスイッチで定義された信号レベルが出力されます。基準レベルは入出力ともに 0dBV(1V)です。

- ヘッドフォン出力 (Headphones) :

より豊かでパフォーマンス度の高い出力を得るために、ヘッドフォンはハイインピーダンスタイプ (200-600Ω)のものをお使いいただくことを強くお勧めします。ヘッドフォンの端子を MONITOR (21)に接続し、ヘッドフォン出力ノブで音量を調節します。

まず、巻末の設置図および結線図を参考にしながら、NUO3 と各周辺機器との接続を行います。
この章では「クイックスタート」と題して H-LINE 入力に CD を接続し、(チャンネル1) 同時にマイクロフォンも接続、出力にヘッドフォンモニター出力のみを使った簡単な使用方法に関して記述します。



1．チャンネルコントロールをセットします。GAIN, TREBLE, MID, BASS の各ツマミを中央のポジションにします。BASSOFF スイッチはきちんと上の位置にあることを確認してください。このとき、フェーダーは一番下まで下げた状態にしてください。また、XFA/MIX/XFB の切替スイッチも任意のポジションに設定してください。
2．モニターボリューム MONITOR VOL (20)の音量を最小にし、モニター切り替えスイッチ MONITOR PFL/MIX (21)を"MIX"の位置に合わせておきます。
3．チャンネル1の H-LINE に接続されている CD プレーヤーの電源を入れます。
4．モニター出力(20)にヘッドフォンを接続します。
5．NUO3 本体のリアパネルに位置するメイン電源のスイッチを投入します。
6．フロントパネルの VU メーターの下側にある"POWER LED"が点灯していることを確認します。
7．CD をスタートさせ、音源を NUO3 に送ります。
8．チャンネル 1 部分にある PFL(フェーダー前段検聴スイッチ(7)を押し、音源をヘッドフォンで聴きながら GAIN つまみを回し、VU メーターの指示値がおおよそ OdBV を指すように調整します。
9．チャンネルフェーダー(11)を上げ、クロスフェーダー(12)を「チャンネル 1」側にします。
10． モニターボリューム(20)を調節し、ヘッドフォンで快適にモニタリングできる音量にします。
11． チャンネルのイコライジングセクション(3/4/5)をチェックします。このイコライザーは DJ のワーキングを極限に考慮して設計されたもので、左いっぱいにツマミをまわすとその帯域の音が消えてしまう、アイソレーター機能を有しています。このアイソレーターは EQ セクション下の"BASS OFF"スイッチによっても可能で、低音域のみ音声をカットすることができ、この 2 つのイコライゼーション機能を使い、プレイします。
12． クロスフェーダー(12)部のアクションをチェックします。クロスフェーダーはチャンネル 1 と 2 に接続された各ソースのミックスバランスを自由に調節するものです。クロスフェーダーの動きにより、スムーズなフェードイン／フェードアウトも可能ですし、「カットスクラッチ」も行えます。クロスフェーダーには特性がありますが、NUO3 はこのクロスフェードカーブ特性を自由に調節することが可能です。本体前面下の"SHAPE"つまみを使い、カーブ特性を決めます。カットインノブ(17)を使えばフェードインのポイントを自由に調整することが可能であり、SWITCH/FADE セレクターでカーブセレクトをし、リバースセレクター(16)でクロスフェーダーのポジションを反転させることも可能です。より細かいフェーダーカーブは(18)ノブで調整できます。

さらに詳しい使用方法に関しては、本説明書の残りのセクションをよくお読みください。

5. 操作方法に関する詳細な記述

5.1. スタートアップ

本体背面にある POWER(34)スイッチを ON にすると NUO3 本体の電源が入り、本体の"ON"LED が点灯します。
＜注意＞
NUO3 の電源投入時に発生するノイズは他の DJ ミキサーに比べ非常に小さく、ほとんどノイズのないスムーズなスターティングが可能です。しかし、他の音響機器対するダメージを防ぐため、ぜひ以下の「電源投入手順」をお守りください。

【電源投入の手順】
1. ターンテーブル、CD などの音源装置
2. ミキサー(NUO3 本体を含む)、および EQ などのアウトボード
3. パワーアンプなどの出力装置とレコーディング機器

【電源 OFF の手順】
上記1～3の逆の手順を行ってください。この手順を守らないと、スピーカーやアンプに損傷を与える危険性があります。

5.2. 各種コントロール

5.2.1 インプットセレクター【Input selector】

各入力チャンネルにはセレクタースイッチ(1)が装備されており、PHONO 入力や CD 入力などを選択することができます。

5.2.2. チャンネルゲイン【GAIN】

NUO3 のすべてのチャンネルには無段階で調整が可能なゲインコントロールノブ(1)が装備されています。このゲインコントロールは主にチャンネル間の入力レベルの違いをおおよその幅で均一にするもので、このゲインコントロールをしっかり行っていれば、フェーダーを上げたときにチャンネルにかかわらず常に同じレベルでの出力が得られます。
ゲインのコントロールの仕方はシグナルプレゼンスインジケーター、ピーク LED、VU メーター、ヘッドフォンでの聴感をリファレンスとして調節します。おおよそのレベルとして、①VU メーターで 0dB 前後を指すこと、②クリッピングインジケーターが点灯しないレベルが最も望ましいといわれています。

5.2.3. イコライゼーション

NUO3 にはチャンネルごとに3バンドの EQ が装備されており、高音(3)および低音(5)は+10/-30dB のブースト/カットが可能で中域(4)は+10/-25dB のブースト/カットが可能です。各帯域のイコライザーを左いっぱいに回すとその大域のとは消失します。(アイソレーション機能) また、このアイソレーションは EQ ノブ下にある BASS OFF スイッチ(6)を操作することによって EQ ノブの位置にかかわらずその帯域の信号をカットアウトすることが可能です。

注意：ブーストをする際には、低音に十分注意してください。低音をブーストしたときにかかるスピーカーの負荷がキャパシティをオーバーして破損する原因となります。

5.2.4. モニタリングシステム

NUO3 には直感的な使いやすさを追求した PFL/PGM モニタリングシステムが搭載されており、VU メーターやヘッドフォンを通じて各チャンネルのモニタリングが可能です。それぞれのチャンネルは PFL(7)ボタンを押すことにより、フェーダーの位置に関わらずそのチャンネルに入力された信号を独立して検聴することができます。

また、PFL/MIX バランスボリューム(21)のつまみを適宜調節することにより、PFL と実際のメイン出力の両方を一度にモニターすることが可能です。
VOL(20)ノブを回すと、ヘッドフォン出力をコントロールすることができます。

5.2.5. 外部エフェクト機器との接続とコントロール [FX SEND]

NUO3 の全てのチャンネルにはそれぞれ FX SEND (9)という調節つまみがついています。これは、エフェクターやサンプラーなど外部機器を SEND 出力(33)に接続し、相手方の外部機器に対して信号を送る量を調節するものです。外部機器からのリターン信号は RETURN もしくはチャンネルのライン入力に接続します。
また、このエフェクト送り機構にはかつてのモデルで DJ からたくさんの要望があった PRE/POST 切り替えスイッチが標準装備されています。POST の場合はエフェクトに送るレベルはチャンネルフェーダーの値に比例しますが、PRE の場合はフェーダーの位置に関わらず常に一定のレベルで送出されます。

5.2.6. チャンネルフェーダー

NUO3 には新開発の 60mm 専用フェーダーが搭載されており、VCA 回路*との併用で高い精度でのフェードとおよそ 400 万回のスクラッチに耐える高耐久性を兼ね備えています。フェーダーのカーブ特性は FADERSHAPE つまみで適宜調節することができます。

*VCA　Voltage Controlled Amplifier (電圧制御増幅回路) の略。フェーダーそのものに音楽信号(可変電流)を通さず電圧のみでコントロールするためフェーダーに対する負荷を軽減することができ、電気パーツの耐久性向上に貢献します。通常 VCA は音を劣化させるという説が一般的ですが、ECLER の VCA 回路は音響特性として放送局グレードに対応するものであり、音質を損なうことがありません。

5.2.7. クロスフェーダー

チャンネルフェーダーと同様、クロスフェーダーにもクロスフェーダーカーブ調節機構"XFADER SHAPE" が装備されており、このつまみを使用して「ソフト」もしくは「ハード」の間でフェーダーカーブを無段階で調節することができます。

特に NUO3 には以下のようなクロスフェーダーに対するコントロールが可能です。

・SWITCH/FADE セレクター
フェーダーシェイプの「フェード」または「スイッチ」モードを決定します。切れを良くしたいのであれば通常は SWITCH モードに設定します。

・NORMAL/REVERSE スイッチ
「ハムスター・スイッチ」と呼ばれているもので、REVERSE の位置に切り替えるとクロスフェーダーのポジションを逆転させることが可能です。

・カットインノブ
この機能はオプションの「エターナルクロスフェーダー」を付けたときに機能します。これはクロスフェーダーに究極の切れを求める DJ にとって最大の武器となります。なぜなら、音の入るポジションをこのつまみを調整することで自分だけのオリジナルの「カットイン」が可能になるからです。
調整方法はクロスフェーダーを最も右にポジションさせノブを回し、音が漏れる少し手前で設定します。その後、クロスフェーダーを最も左にポジションさせ、音が漏れていれば漏れていない少し手前のところまでノブを回します。これで設定は完了です。

5.2.8. VCA チャンネルフェーダーおよびクロスフェーダーの交換について

それぞれのフェーダーには寿命があり、無心号状態で動かしてみて雑音が発生する場合やプレイ中に音が途切れるなどの症状が出現したときはそのフェーダーは交換時期にあると判断すべきです。フェーダーは以下の手順で簡単に交換できます。

1. フェーダーノブをはずし、本体底部にある 4 つのねじをドライバーで外します。
2. 本体とフェーダーを固定している 2 つのねじを外し、フェーダーを本体から出します。
3. フェーダーを接続しているマルチピンコネクターを外します。
4. 新しいフェーダーを取り出します。(必ず ECLER 純正交換用パーツをお使いください)
5. マルチピンコネクターを接続します。
6. 本体とフェーダーを先ほど外した 2 つのねじでしっかりと固定し、動かないことを確認します。
7. 本体底部の蓋をし、フェーダーノブを取り付けて完了です。

5.2.9. マスター出力レベル [MASTER]

NUO3 は MASTER 1 (23)および MASTER 2 (22)の 2 つの出力を有しています。OUT 1 (36-37)のレベルは MASTER1 のレベルコントロールで、OUT 2 (38)は MASTER2 のレベルコントロールで、それぞれ独立して行うことができます

6. より楽しくお使いいただくために

6.1. グラウンドループ

すべての接続機器のグランド（接地）がループ状態にないかどうかを確認してください。また、各種機材を接続する際は必ずシールドの施されたケーブルを使用してください。これを怠ると、ハムノイズなどを誘発する原因となります。

6.2. 周辺のオーディオ機器の接続

オーディオ機器を接続するに当たって一般的に言える事項ですが、以下のことに留意してください。
※ケーブルはなるべく太いものをなるべく短く使用すること
※常にハイクオリティなケーブルを使用すること
NUO3 はレコーディングなどのリファレンスとしても使用できるグレードの DJ プリプロダクションミキサーであり、内部のパーツはすべて最高質のものを使用しています。せっかくいいミキサーを使ってもケーブルやコネクターが悪いのであれば意味がありません。

6.3. バックグラウンドノイズ

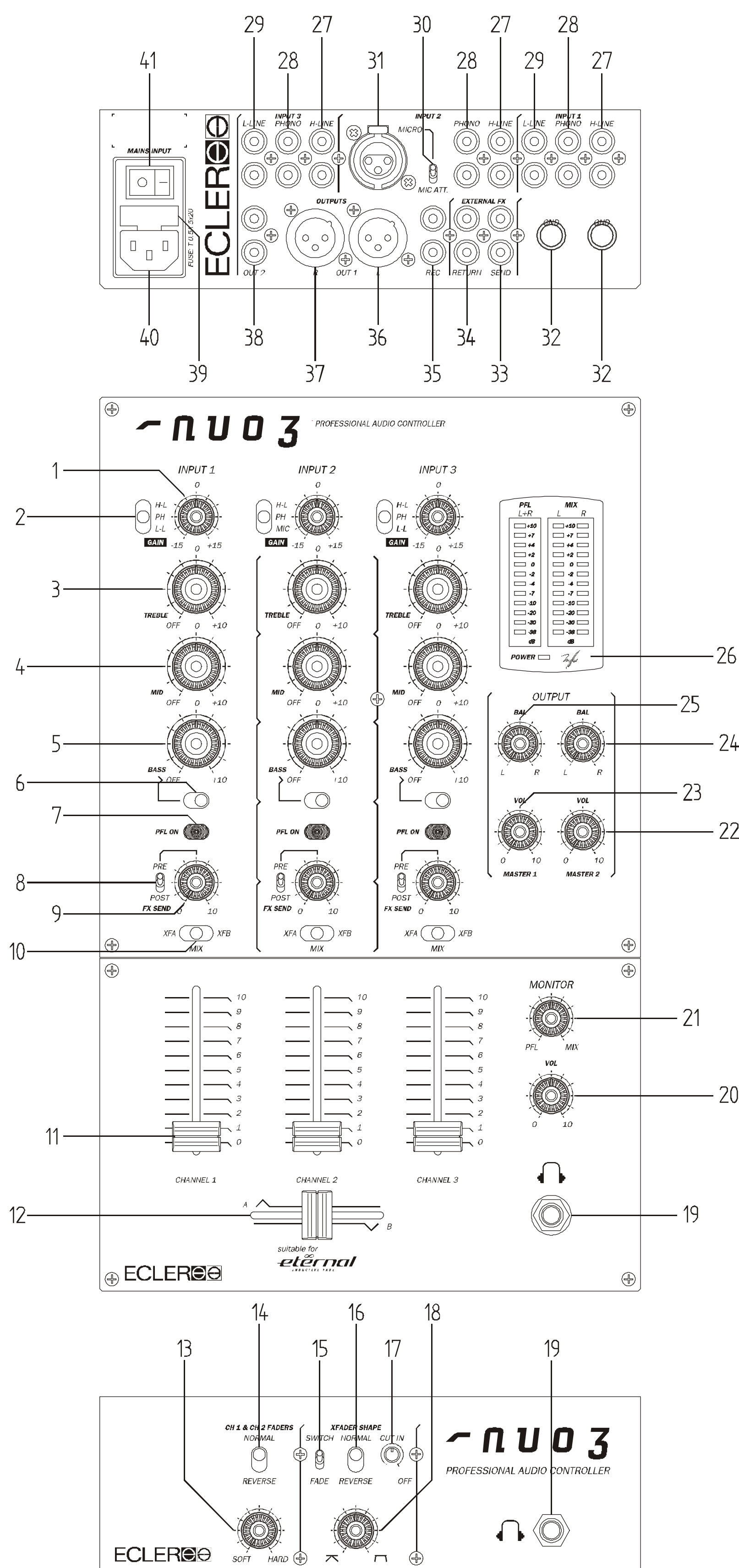
よくある質問や製品に対する意見として「バックグランドで発生しているノイズ」が取り上げられます。ECLER の DJ ミキサーのすべての製品は、パーツから回路構成まですべてが吟味されつくし、放送用グレードとしても遜色のない、すばらしい電気性能を持つ製品です。また、100V 以下で使用してもまったく電源にノイズが左右されることはありません。それでは、どうしたらノイズを減らすことができるのでしょうか？
たとえば、チャンネルフェーダーを 2 に設定してマスターフェーダーを 10 に設定するのと、チャンネルフェーダーを 10 に設定してマスターフェーダーを 2 に設定するのとでは前者のほうが断然に発生するノイズレベルは大きくなります。また、他のチャンネルフェーダーを上げたままの状態にしているとその数が多いほどノイズの発生に影響します。また、同じように GAIN ノブを上げすぎてチャンネルフェーダーのレベルを小さくしたときも同じ状況が発生します。
これらのことに気をつけることができればよりよいコンディションでミキサーを使用することができます。

6.4. クリーニング

お手入れをする際には、中性洗剤を水に薄めた液体を使い、柔らかい布を使って軽くふき取るようにしてください。溶剤の入った有機性液体は本体の塗装をはがしたり、液体が内部に混入して回路に重大なダメージを与える可能性がありますので絶対におやめください。また、いかなる場合においてもフロントパネルから液体を混入させないようにしてください。

7. 各セクションの機能および端子の詳細　　　　8. ファンクションダイアグラム

1. GAIN (ゲイン：入力感度調整)
2. インプットセレクター
3. TREBLE (トレブル：高域音質補正)
4. MID (ミッド：中域音質補正)
5. BASS (バス/ベース：低域音質補正)
6. 低域アイソレーションスイッチ
7. PFL (フェーダー段検聴スイッチ)
8. FX センド：外部エフェクター送りプリ/ポスト切替
9. 外部エフェクター送りコントロール
10. クロスフェーダーアサインスイッチ, XFA/MIX/XFB
11. フェーダー
12. クロスフェーダー
13. シェイプアジャスター, SOFT HARD
14. フェーダーリバース機能
15. クロスフェーダーカーブコントロール
16. クロスフェーダーリバース機能
17. クロスフェーダーカットインアジャスター,
18. クロスフェーダーシェイプアジャスター
19. ステレオヘッドフォンジャックコネクター
20. ヘッドフォン音量コントロール
21. PFL/MIX モニタークロスフェード
22. マスター2 出力コントロール
23. マスター1 出力コントロール
24. マスター2 バランスコントロール
25. マスター1 バランスコントロール
26. VU メーター(PGM/PFL)
27. ハイライン入力 (RCA ピン)
28. フォノ入力端子 (RCA ピン)
29. ローライン入力 (RCA ピン)
30. マイク入力感度切替スイッチ
31. マイク入力
32. フォノ用アース接続端子
33. 外部エフェクト用出力端子
34. 外部エフェクトリターン入力端子
35. 録音用 RCA ピン出力
36. マスター1 バランス出力(左)XLR 端子
37. マスター1 バランス出力(右)XLR 端子
38. マスター2 RCA アンバランスピン出力端子
39. ヒューズホルダー
40. 電源コネクターソケット
41. メイン電源スイッチ



9. 本製品の技術的仕様

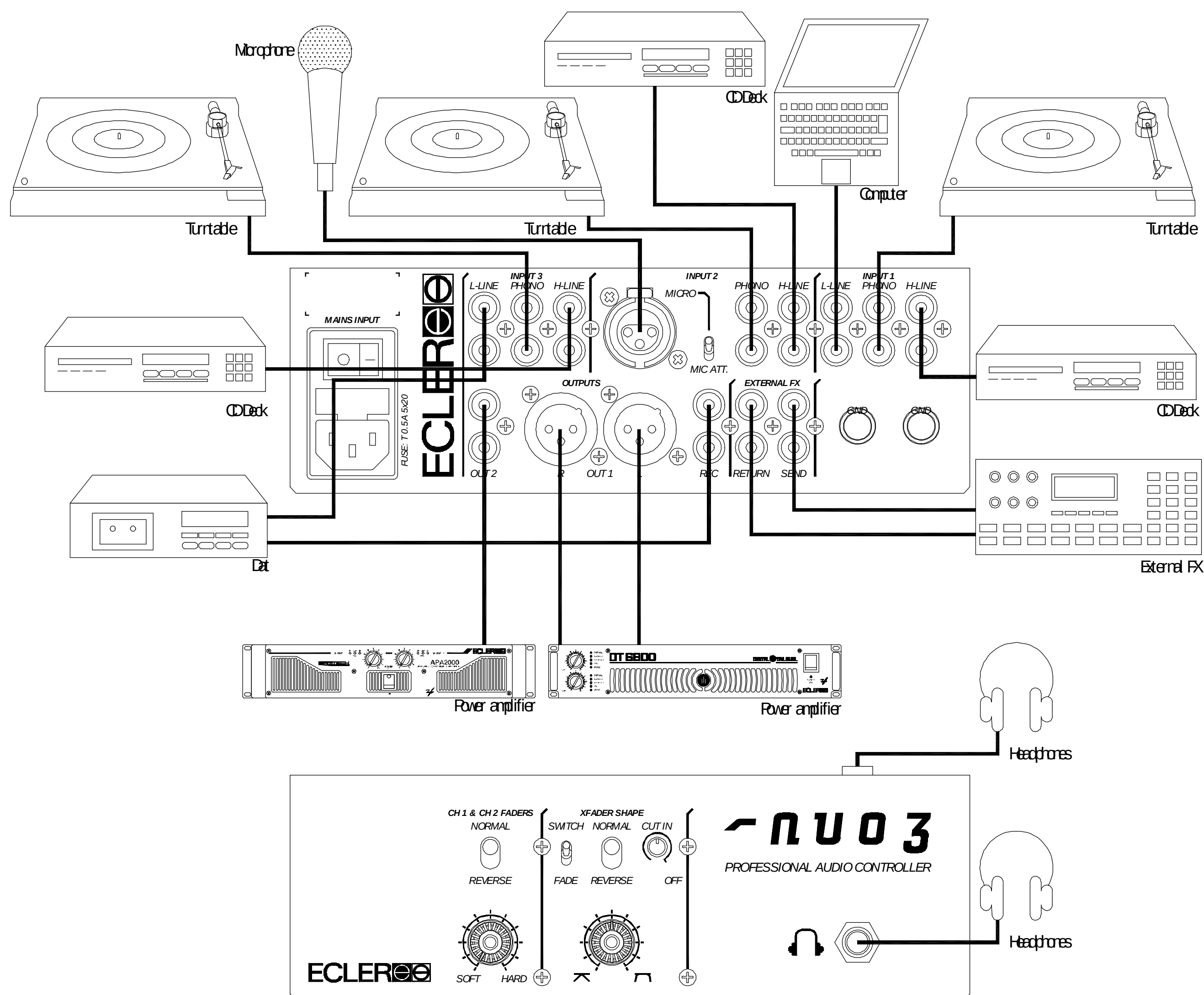
入力感度およびインピーダンス	H-LINE	0dBV/50kΩ
	L-LINE	-10dBV/50kΩ
	PHONO	-40dBV/50kΩ
	MICRO	-50(-30)dBV/>1kΩ
	FX RETURN	0dBV/>15kΩ
出力レベルおよびインピーダンス	OUT 1 (BAL)	0dBV/600Ω 1V*(+6dB 2V)
	OUT 2	0dBV/2.2kΩ 1V*(+6dB 2V)
	REC	0dBV/10kΩ
	HEADPHONES	200mW/200Ω THD 1%
	FX SEND	0dBV/10kΩ
周波数特性	H-LINE & L-LINE	10Hz÷30kHz -1dB
	MICRO	10Hz÷25kHz -1dB
	PHONO	RIAA ±0.5dB
THD+N (総合ひずみ率)	H-LINE & L-LINE	<0.07%
	MICRO	<0.1%
	PHONO	<0.15%
CMRR	MICRO	>70dB @ 1kHz
SN 比 (信号対ノイズの比率)	H-LINE & L-LINE	>95dB
	MICRO	>85dB
	PHONO	>90dB
ゲインコントロール (全入力)	GAIN	± 15dB
トーンコントロール	BASS	+10-30dB
	MID	+10-25dB
	TREBLE	+10-30dB
“Kill”フィルター周波数(-6dB: 12dB/オクターブスロープ)	LOW	200Hz
ファンタム電源		+18VDC/5mA max
定格電源入力		90-264VAC 47-63Hz
定格消費電力		37VA
寸法	Panel	370x224mm
	Depth	80mm
重量		4,1 kg

(*) 内部ジャンパーで設定変更可能な箇所

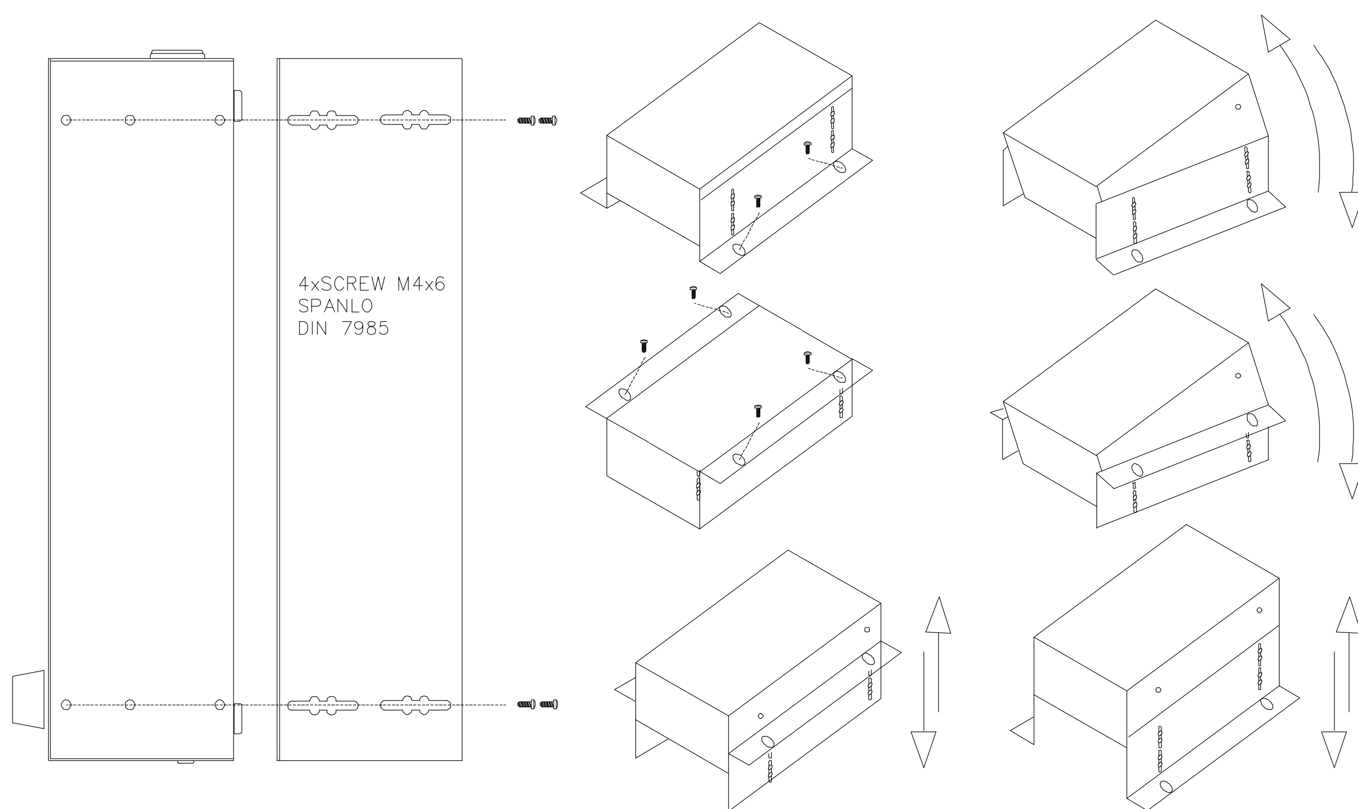
10. ダイアグラム

10.1.参考図集

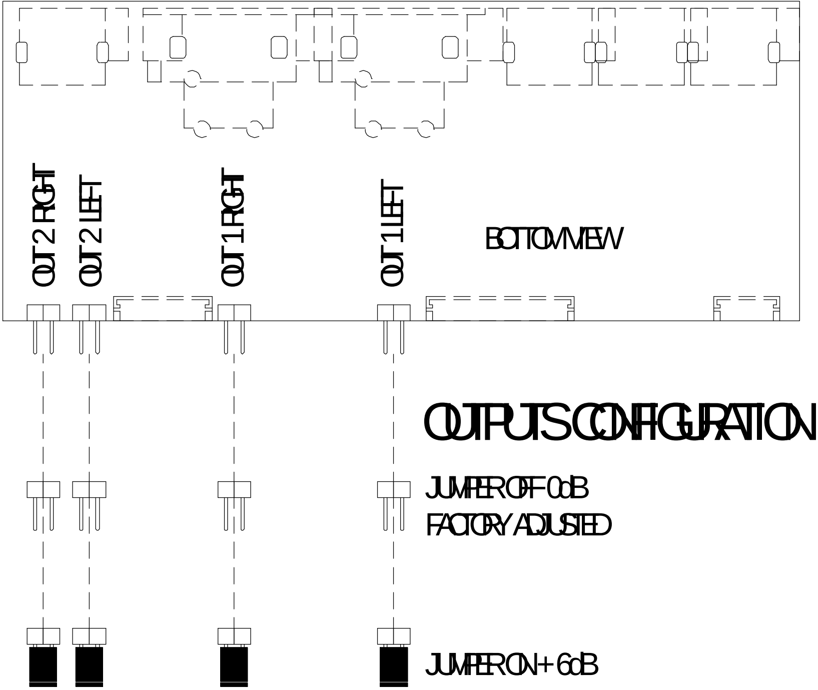
10.1.1. 各周辺機器との接続

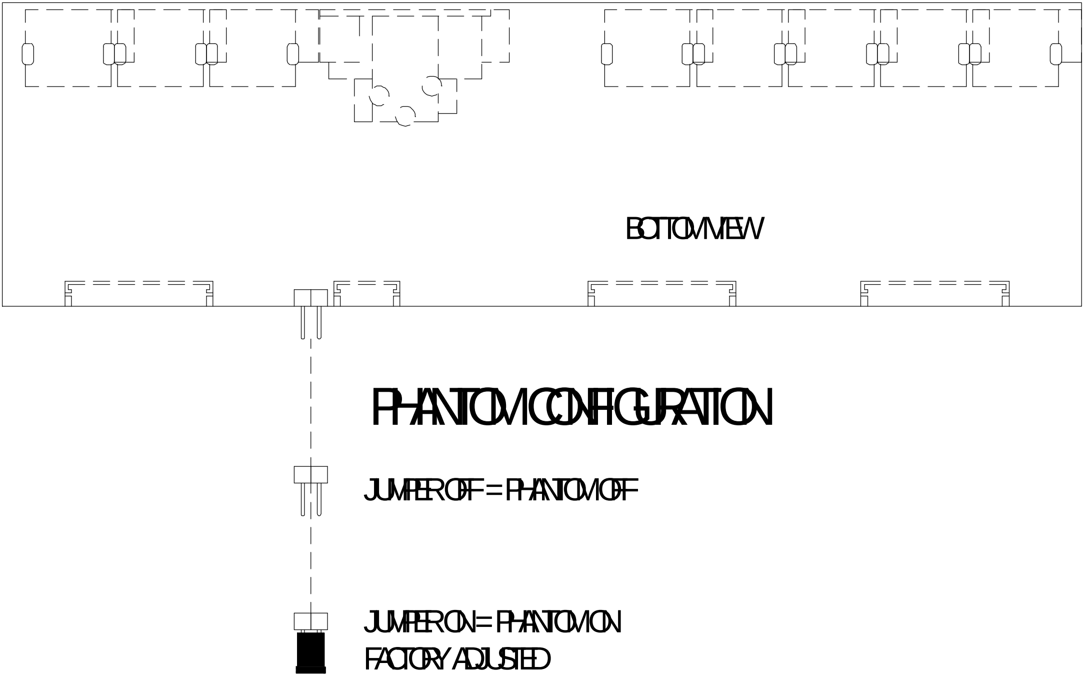


10.1.2. ラックイヤーシステムの詳細(Fig1)

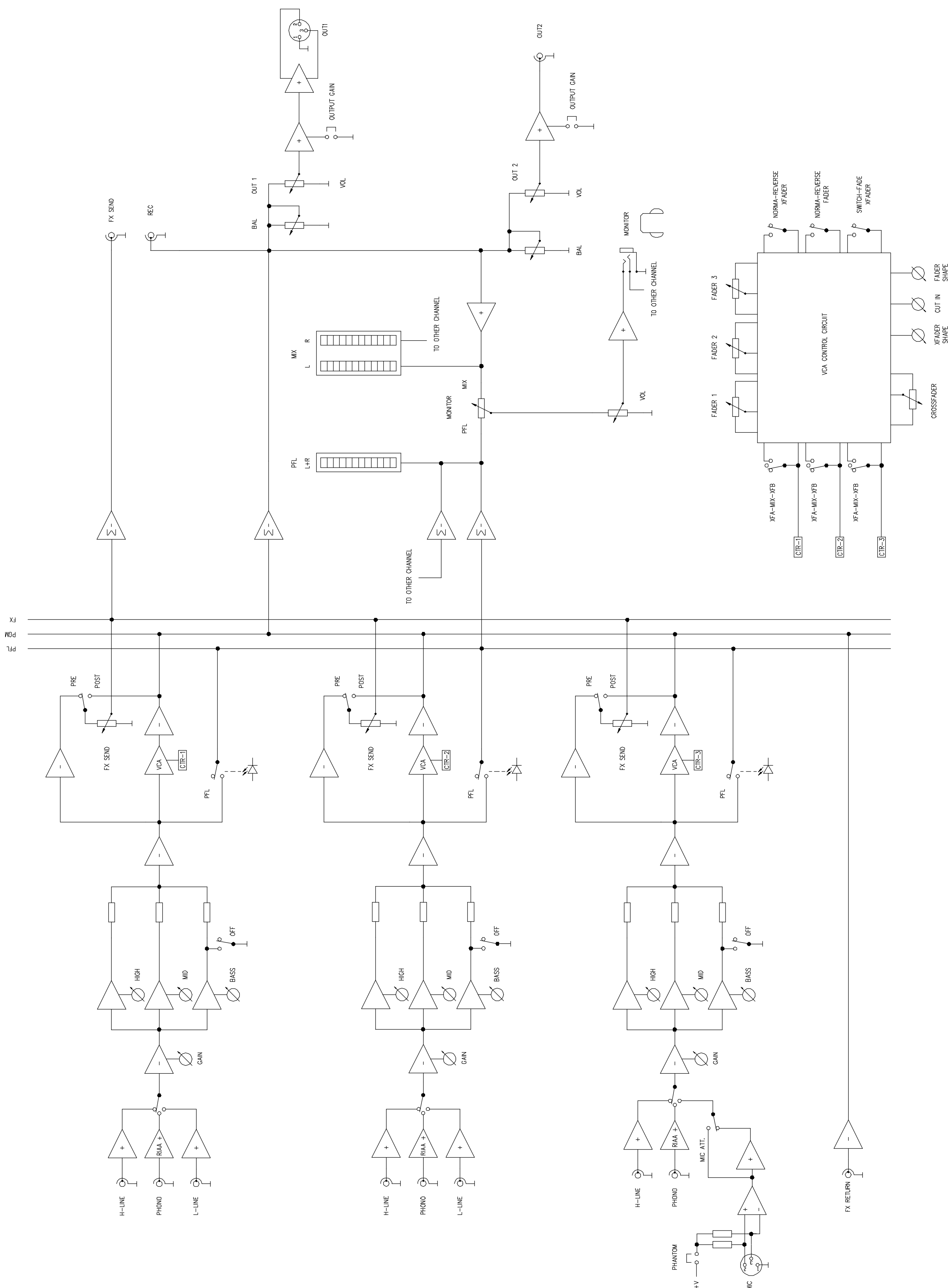


10.1.3. 内部ジャンパーピンによる出力ゲインの変更 (※内部回路の詳細について理解できる方のみ行ってください!)





11. ブロックダイアグラム



NUO3 日本語取扱説明書



【日本正規輸入代理店】

グラフィカ株式会社

本社/〒703-8265 岡山市中区倉田295-15

TEL 086-239-0010　FAX086-239-0020

http://www.graphica.ne.jp

NUO3 日本語取扱説明書